

公立保育園の保育内容**乳児の保育 環境づくり (室内遊び)**

1. 遊びのコーナーのねらい

- ① 子どもの手が届くところに玩具があり、子どもが自ら選びとって遊べるようにする。大人が管理しやすいように大人の都合で子どもにおもちゃを与えるのでは、子どもは常に受け身となる。乳児の時期から自らの意志で環境に働きかけていく力—主体性を育てていく。
- ② 最大限遊びの時間を保障していく。待たされる時間をなくすこと、短いちょっとした時間も、眠る、食べる、排せつする、着脱する等の合間の時間も全ての時間、子どもは環境にかかわり、心身を発達させていく。その全てを充実させる環境を整える。
- ③ 乳児期は個人差が大きく、発達に合わせた玩具を様々に取り揃える必要がある。子どもの発達の要求に合った玩具、興味、関心が持てる玩具が、沢山選べるだけあり、遊びたくなるように魅力的に配置されていることが遊びへの動機づけになる。
- ④ いくつかの遊びのコーナーを設置することで少人数ずつに分かれて遊ぶようになり、落ち着いて遊ぶことができる。一斉に全員が同じ遊びをするよりも子ども同士のトラブルが減る。また、興味、関心の近い子ども同士が親密になる機会となる。
- ⑤ オモチャ棚などで区切り、コーナーに遊びの特性を持たせることで、遊ぶ場所のルールができ、邪魔されずにじっくり遊びこむことができる。落ち着いて過ごせる場所ができる。
- ⑥ 玩具が手の届かない所や見えない所に片づけられてしまうのではなく、いつも同じところにあることで、次への見通しが持てる。又、遊びの続きができるように置いて置くスペースを設けることで、気持ちの切り替えがしやすくなる。
- ⑦ 保育者が玩具を棚の基の場所に丁寧にしまったり、秩序立てて並べることで、物の扱い方や片づける習慣が身についていく。

2. コーナーを作るにあたっての配慮事項

- ① 発達の要求にあった玩具を置く。
全身運動の遊び 感触遊び 感覚遊び 手指の操作遊び 見たて遊び つもり遊び 認識遊び 構造遊び ごっこ遊び
- ② 子どもの遊び方をよく観察し、たつぷりと数が必要なものは、数を揃える。
- ③ 一通りの遊び方ではなく数種類の遊び方ができるものや幾通りにも見立てられる物を用意する。
- ④ 布や木製の手触りの良いもの、温かみのある手づくりの物を置く。
- ⑤ 子どもがわかりやすいはっきりとした色彩のものを揃える。
- ⑥ 数種類の玩具を組み合わせ、遊びが発展するようにする。
- ⑦ 季節感を持たせる。
- ⑧ 穴おとし、つなぎ遊びなど手先の遊びはいろいろなバージョンを揃える。

- ⑨ パズルなどステップアップできるように段階を揃える。
- ⑩ 子どもの遊びをよく観察し、玩具を入れ替えやコーナー替えをする。
- ⑪ 角がある物、先端がとがっている物、飲み込んでしまう大きさの物等事故につながるものを置かない。
- ⑫ その場所にいることで遊びのイメージが広がるようなレイアウトをする。
- ⑬ 棚の上に登る、部屋を走り回るを誘発しない工夫をする。
- ⑭ 棚の高さは死角を作らないようにする。
- ⑮ 玩具棚、しきり棚は危険のないように角を保護したり、置き場所に配慮する。
- ⑯ 子どもが自分で片づけやすい工夫をする。
- ⑰ 子どもや大人の動線を邪魔しないレイアウトにする。

乳児の保育で大切にしていること

- ① 一人一人の子どもを尊重し、大切にすること。
人格の尊重 主体性を育てる 思いを読み取る 気持ちに寄り添う 自分でやりたい気持ちを育てる 日々の積み重ね 個人差に配慮する 一人一人に愛情を注ぐ 自尊感情を育てる
- ② 大人との信頼関係を築き、安心して過ごす。
人への信頼感が育つ 担当制 担当保育士との親密なかかわり 情緒の安定 まわりへ関心が向く 友達への関心が芽生える
- ③ 生活リズムを整え、安定して過ごす。
よく遊び、よく食べ、よく眠る 心身の健康 情緒の安定
- ④ 遊びを通して心身の発達を促す。
遊び(自由な行為)を通して子どもは育つ 発達の要求に合った環境 最大限に遊びの時間を保障する
- ⑤ 清潔で安全、安らぎや温かみのある環境で過ごす。
感染症予防 保育室・玩具の消毒 安全点検 小さな集団 家庭的環境
- ⑥ 家庭との連携を密にする。
細やかな健康管理 24時間の連続性 保護者との信頼関係 情報共有 共に育てる